

市長所信表明（平成28年9月1日）

【はじめに】

平成28年第3回登別市議会定例会の開会にあたり、3期目の所信の一端を申し上げ、市議会議員の皆さん並びに市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

私は、先の選挙におきまして、3回目の当選の栄誉を賜り、引き続き市政執行の重責を担うこととなりました。

これまでの2期8年間は、市民の皆さんとまちづくりのさまざまな情報を共有し、市民と行政が互いの力を活かした協働のまちづくりに取り組んでまいりました。

この度、皆さんの温かい支援のもと、4年間の市政運営の機会をいただきましたので、まちを取り巻く環境をしっかりととらえ、市民が主役のまちづくりをさらに成長、飛躍させるとともに、新たな試みにも積極的に取り組み、全力で市政の推進に努めてまいります。

【市政運営の基本的な考え方】

今後4年間の市政運営にあたる私の基本的な考えを申し上げます。

全国的な人口減少や少子高齢化が進む中、若い世代が三大都市圏

をはじめとした大型都市へ流出するなど、地方が人口減少と高齢化の影響を強く受ける傾向が見られます。

地方に人を定着させ、活力あるまちを維持するためには、他の自治体と足並みをそろえて進む画一的な行政運営のみに終始するのではなく、国が地方創生を政策の柱として、各自治体が行う独自性のある取組に対し支援するなど、地方の活性化に力点をおいていることをしっかりと受け止め、自ら考え、行動し、個性豊かで魅力あるまちづくりに取り組む必要があります。

こうした背景をふまえ、多くの方が住みたいと思えるまち、市民の皆さんが住み続けたいと思えるまちづくりを目指して、これからの4年間、5つの「Power」をもって力強く市政運営を進めてまいります。

第1のPowerは、「未来を育むPower」であります。

少子高齢・人口減少社会における自治体の未来を描くためには、子を産み育てる環境の充実や次代を担う子どもたちを、思いやりのある心豊かな人間に育てるまちの風土づくりが大切です。

そのため、周産期を含む妊娠期から子育て期までの各種相談に一貫してサポートする仕組みづくりや、地域の保健・医療・福祉の関

係機関と連携し、母子保健施策と子育て支援施策を横断的に推進できる体制づくりを進めます。

また、保育所と幼稚園が一体となった認定こども園の創設や子ども・子育て支援新制度に移行する幼稚園などの保護者等の利用者負担額軽減支援を新たに行うなど、幼児期の多感な成長を支える環境づくりや子を産み育てる若年層世代へのサポートを進めるとともに、知・徳・体のバランスのとれた生活が送れるよう、学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちを育む環境づくりに努めます。

さらに、若い世代が道徳心にあふれ、思いやりのある市民が集うまちとなるよう、地域が一体となって学び、英知と徳性を養いながら、人財育成が実現できる施策を推進するとともに、この登別市で学び、さまざまな分野で活躍できる若者を育成するため、市内の高等学校や日本工学院北海道専門学校と連携を深めてまいります。

また、多くの若者が未来に力強く羽ばたくためには、大きな夢が必要でありますので、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、若者たちが将来の活躍を夢見て、健康な体と健全な精神を育むことができるよう、文化・スポーツに親しむ機会を創出してまいります。

第2の Power は、「充実した福祉を实践する Power」であります。

高齢化が進み、今後、支援を必要とする方がますます増えていく環境の中、市民一人ひとりが、健康で幸せを実感できる生活を送るためには、福祉社会の充実が必要です。

登別市社会福祉協議会の「登別市地域福祉実践計画（きずな）」と当市の「登別市地域福祉計画」を連動させ、一体となった取組を展開するため、関係団体と連携した地域福祉を推進するとともに、住み慣れた地域の中で医療を受けることができる環境の維持に向け、JCHO登別病院の移転・新築が行われるよう取り組んでまいります。

また、支援を必要とする方を地域全体で支えることができる介護予防・日常生活支援総合事業を構築するとともに、すべての世代が健やかに生活できるよう、市民の皆さんとの協働により積極的に取り組む健康づくりを推進します。

日頃から見守りが必要な方については、町内会を基礎とした小地域ネットワークに取り組む登別市社会福祉協議会を引き続き支援するとともに、避難行動要支援者避難支援プランの活用を推進し、平時はもとより有事の際においても、地域の中で互いに支え合い、安

心して暮らすことができるよう環境づくりを進めます。

また、障がいのある方が、地域社会で安心して活躍できる環境の充実に努めるとともに、手話を用いた心のバリアフリーを進めるなど、地域が関わることによって、仲間づくりの機会や働くことができる環境などを増やしていけるよう取り組んでまいります。

さらに、仕事や地域活動等において女性が活躍できる環境づくりを推進するとともに、老人クラブや町内会活動等を通して、高齢者自らが磨いてきた経験等を活かして活躍できる機会を増やすなど、すべての世代が生きがいを感じることでできるまちづくりに取り組んでまいります。

第3の Power は、「経済発展を増幅させる Power」であります。

国は、東京オリンピック・パラリンピックの開催を予定している2020年に向け、外国人観光客の受け入れ環境整備を進めるなど、観光先進国を目指すこととしております。

当市は、登別温泉やカルルス温泉をはじめ、基幹産業である観光産業を中心に、国内外から多くの観光客にお越しいただいておりますが、受け入れ体制の充実や質の高いサービスの提供による満足度の向上など、これまで以上に登別観光の付加価値を高め、全市的な

広がりをもって経済循環を加速させることが求められています。

本年3月には、北海道民の悲願であった北海道新幹線が開業し、東北地方をはじめとする本州などから多くの観光客の来訪が期待されており、開業効果の最大化を図るため、登別観光の玄関口となるJR登別駅が安全で安心して利用できるようバリアフリー化に向けた取組を進めるとともに、訪れた観光客が長く滞在できるような魅力的な周辺整備のあり方について、市民の皆さんと共に検討を始めます。

さらに、登別観光の付加価値を高める取組として、地産地消を意識した食の魅力の向上と食文化の育成に努めるとともに、登別ブランドを磨きあげることによって、高付加価値の商品が開発され、他の事業との相乗効果が発揮されるようサポートしてまいります。

登別ブランドをはじめとしたまちの魅力を広く発信するとともに、ふるさと納税制度をこれまで以上に推進し、多くの方から応援いただけるまちづくりを進めてまいります。

また、病気を抱える方が安心して当市を訪れ、何日にも渡って滞在することができるよう、関係医療機関や旅行代理店と連携し、国内外の透析患者を受け入れるメディカルツーリズムの実現に向け、

取り組んでまいります。

まちの経済発展のためには、近隣住民に対応できる元気な商店街の存在が重要でありますので、起業機会の創出や空き店舗の再利用を促すことにより商店街の活性化に努めるほか、各地域にお住まいの方や企業・団体等の協力を得て、時代に即した魅力ある独特な取組が各地域で実践されるよう支援してまいります。

第4の Power は、「安全で安心な社会を実現させる Power」であります。

市民の皆さんが安全で安心な生活を営むためには、安定した行財政運営のもと、将来を見据えた計画に基づく取組や施設の計画的な整備等が必要不可欠でありますので、常に市職員と共に自らに問いかけ、不断の見直しを行いながら行政経営に取り組んでまいります。

少子高齢・人口減少社会に適応したまちの形成には、人の流れを把握し、将来的に生活空間がどのように変化していくのかをふまえながら、まち全体をデザインすることが重要となりますので、暮らしやすさなどの視点から、市内の中心エリアをどのように形成していくかなどについて、市民の皆さんと共に議論を始めます。

災害時の対策等については、東日本大震災や熊本地震、大規模停

電などを教訓に、当市が被災した場合において支援を的確に受けることができるよう災害時受援計画の策定に着手するとともに、噴火の周期性がある有珠山の災害発生時における近隣市町への支援の方策等について、適切な行動が可能となるよう後方支援計画の策定に取り組むほか、大規模災害に備え、民間施設を活用した長期間避難施設の確保等に取り組めます。

また、市民の安全を第一に考え、さらに当市を訪れる観光客の安全を意識した新たな消防体制を構築し、とりわけ観光客の往来する地域をはじめとして、支署の再編に取り組み、平成32年度を目途に登別支署と登別温泉支署を再編した統合支署の供用開始を目指します。

高齢者への取組については、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、日常生活圏域の中で、介護に加え、医療や予防、生活支援、住まいを一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、医療機関や福祉施設等との連携が強化できるよう支援してまいります。

また、多くのまちで課題となっている空き家等の活用については、安全対策、移住施策の観点から、関係団体との協議を引き続き行う

とともに、少子高齢社会をふまえた市営住宅のさらなる活用について、研究を深め、試行してまいります。

第5の Power は、「住み続けたいと思う地域 Power」であります。

多くの市民が住み続けたいと思うまちを形成するためには、まず、私たち一人ひとりが、まちを知り、愛し、そして登別市民としての誇りを持つことが大切です。

先人の弛まぬ努力により形成されたまちを引き継いだ私たちが、未来に継承していくためには、まず、私たち登別市民が、まちの変遷や風土、先達の努力について共通認識を持つことが重要となりますので、市史編さんを通じて、しっかりと地域の歴史を後世に残してまいります。

また、緑あふれる街並みや誇れる景観形成を推進し、市民の皆さんが生活に潤いやゆとりを感じることができるよう、将来に渡って維持可能な都市空間のあり方を検討してまいります。

公共施設については、市民の皆さんが安全に、そして安心して利用できるよう、既存施設の長寿命化を進め、最大限有効活用するとともに、施設の多機能化や複合化、統廃合を検討するなど、施設のさらなる有効活用を図ってまいります。

まちの活性化には、市民が活気にあふれ、世代に関わらず、すべての人が輝くまちづくりに積極的に関わるのが肝要であります。

これまでも機会あるごとに申し上げてまいりましたが、まちづくりとは行政のみで行うものではなく、市民と行政が課題についての共通認識を持ち、共に解決策を見だし、取り組んでいくものと考えております。

市政運営にあたっては、まちづくり基本条例をはじめ、まちのあべき姿を示す総合計画に基づき、さまざまな団体と連携してまちづくりに取り組んできたところであり、その多岐にわたる協力とまちを思う熱い思いには、言い尽くせないほどの感謝をしているところであります。

今後につきましても、さまざまな分野において、適切な情報共有のもと、この登別市がより良いまちとなるよう、不断に新たな道を模索してまいります。

以上、ふるさと「のぼりべつ」のさらなるまちづくりに臨む所信の一端を申し述べさせていただきましたが、私がまちづくりを進めるにあたり、これまでも、そしてこれからも大切にしていきたいのは、まちを思う市民の皆さんに市政へ参画していただき、より良い

まちの実現に向けて話し合い、共に行動し、まちの発展を目指すこととあります。

市政に参画していただくということは、自らが選択し、それぞれが責任を持つということとあります。

次代を担う子どもたちが誇りを持てる地域社会を築き、継承するため、どの部分の施策を厚くするのか、どこを見直すべきなのか、厳しい決断による結果についても、皆さんと共に乗り越えていきたいと強く思っています。

先人の言葉に「和して同ぜず」という言葉があります。

まちづくりには、多くの人さまざまな思いがあふれ、その思いを一つの形にまとめることはとても難しいこととあり、時間がかかることとあります。

私はこれからのまちづくりを進めるにあたり、この言葉をしっかりと胸にきざみ、市民力を結集した市民が愛することのできる登別市の実現に向け、揺るぎない信念と道理のもと、皆さんの理解を得ながら、一つひとつ課題を乗り越えてまいります。

議員の皆さん、市民の皆さんのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、私の所信表明といたします。